

# 教科等研究会（中学校保健体育部会）

## 令和3年度 研究活動のまとめ

### 1 研究テーマ

「主体的・対話的な学びを通して、みんなが「単元のゴールの姿」を目指して活動する保健体育の授業」  
～充実したオリエンテーションの授業を通して～

### 2 研究経過

第1回			第2回			第3回（研究授業）		
期日	人数	場所	期日	場所	内容	期日	場所	授業者
6/7	15	益城中学校	8/2	木山中学校	研究の方向性について	11/26	益城中学校	有働 秀樹 (益城学校)

※第4回では、研究のまとめと次年の方向性を話し合う予定であったが、コロナ感染症予防のため中止となった。

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の内容

昨年度までは、本郡生徒の現状を踏まえ、長期にわたって「体力向上」を研究テーマに入れてきたが、各校の体力向上の取組により、令和元年度の体力調査の結果では、約60%の項目で県平均を上回った。このまま、体力向上に向けた取組を継続していくとともに、新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」を達成したいと考え、研究テーマを設定した。

まず、「主体的・対話的な授業にするための取組」として、①「単元計画表、メニューボードを提示する。」②「学習目標（めあて）を明確に示す。」③「課題解決場面の設定を行う。」④「友達と助け合う、話合う活動を行う。」⑤「振り返りの活動を行う。」⑥「学習カード及びICT機器を活用する。」を共通実践事項とした。

さらに、「主体的・対話的で深い学び」を達成するには、単元を学習した後の生徒の姿をイメージして授業を構想していく必要があると考えた。この「単元のゴール」を意識するための取組では、①「教材研究の際の「単元構想」の設定や主体的・対話的で深い学びを実現する場面を設定する。」②「授業の際、生徒に『単元のゴールの姿』を提示する。」③「単元の学習課題を毎時間の授業で提示し、生徒に課題意識をもたせる。」④「生徒が学習したことの意義や価値を実感できる評価を工夫する。」ことを共通実践事項として研究を進めた。

#### (2) 成果と課題（○：成果 ●：課題）

○ICT機器を使うことで、自分やチームの課題が明確になり、課題を解決させるための話し合い活動が活発になった。

●ICT機器を用いて撮影を行う際には、どの場面を撮影するのかという指示を明確にしておかないと、見る視点がぶれてしまい、学習課題とは異なる意見や考え方が生まれる。

### 4 実践事例

#### (1) 授業の概要

中学3年生「球技：バレーボール」

授業者：有働 秀樹教諭（益城中学校）

これまでのオリエンテーションは単元の初回のみに行っていたが、本時においては、単元前半の授業を振り返り、自己やチームの課題を把握すると共に、単元後半のオリエンテーションを行い、再度「単元のゴールの姿」の姿を明確にして、授業に臨む姿を目指すことを目標とする授業である。

(2) 学習構想案

第3学年1組 保健体育科 学習構想案

期 日 令和3年11月26日(金) 第5校時  
 場 所 益城中学校 体育館  
 指導者 教諭 有働 秀樹

① 単元構想

単元名	球技「バレーボール」		
単元の目標	(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防ができるようにする。 (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	【知識】 ① 球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあること。 ② 練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があること。 【技能】 ① サービスでは、ボールをねらった場所に打つこと。 ② ボールを相手側のコート上の空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。 ③ 攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げること。 ④ ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすること。 ⑤ 腕を強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。 ⑥ ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすること。 ⑦ ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。 ⑧ 連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。	① 選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えること。 ② 自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えること。 ③ ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返ること。 ④ チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を振り返ること。	① 球技の学習に自主的に取り組もうとすること。 ② 相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとする。こと。 ③ 作戦などについての話し合いに貢献しようとする。こと。
単元終了時のゴールの姿			
仲間と協力して学習する中で、バレーボール(球技)に関する理解を深め、役割に応じたボール操作や連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を行うことで、バレーボールの楽しさや喜びを味わい、日常生活でも球技をはじめスポーツに多様な関わり方をする生徒			
本単元で働かせる見方・考え方			
バレーボール(球技)の勝敗を競う楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割に着目して、作戦を立てたり、仲間と連携したりして「空いた場所をめぐる攻防」をする、練習中や試合中の技能を見る、補助したり、仲間に助言したりして支える、バレーボールの特性や名称、ポイント等を知る、といった多様な関わり方と関連づけること。			

## ②単元における系統と及び生徒の実態

生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）				
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況（人）				
調査内容	概ね（6割～8割）	十分（8割）		
サーブでは、ボールの中心付近で捉えることができる。	20	8		
味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。	15	7		
テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込むことができる。	8	3		
■本題材の学習に関する意識の状況（人）				
調査内容	とても	やや	あまり	ない
保健体育の授業を楽しんでいると感じますか？	22	10	3	1
バレーボールが好きですか？	12	15	6	3
保健体育の授業では、十分に体を動かしていると思いますか？	20	14	2	0
保健体育の授業では、単元の最初に目標が示されていますか？	28	7	1	0
保健体育の授業では、授業の始めに目標が示されていますか？	28	6	2	0
■考察				
<p>（資質・能力に関して）バレーボールの学習は1学年時に全員が行っているが、学習してから2年が経過していることや1学年での学習時には、ソフトバレーボールを使用していたこともあり、ボール操作における基礎・基本的な技能の習得状況は十分ではない。また、バレーボールに関する意識調査からは「楽しい」と答える生徒が多く、「どのようなときに楽しいと感じますか」の質問には「パスがつながったとき」や「ラリーが続いたとき」等の「つながる」や「続ける」ことに関する意見が多かった。また、反対に「どのようなことを難しいと感じますか」の問いには、「自分が思うところにパスをすることができない」、「すぐにボールが落ちてしまう」、「強いスパイクが打てない」等の基本技能面に関するものが多かった。つまり、生徒は技能に関する課題を抱えており、技能が向上すれば、より大きな楽しさを感じさせることができると考える。具体的には、オーバーハンドパスやアンダーハンドパス等の基本的な技能を確実に身に付けさせたい。手立てとしては、技能の練習を行う際に、タブレット端末で自分の動きを撮影し、自分の課題を明確にできるようにしたい。</p> <p>（学びに関して）意識調査からは、保健体育の授業を「楽しい」と答えた生徒が多く、さらに「どのようなときに楽しく感じるのか」を問うと、「仲間と協力したとき」、「プレイがうまくいったとき」という答えが多かった。つまり、生徒は技能面の成長や仲間との関わりを楽しんでいる。そこで、本単元でも互いに練習相手になったり、状況判断につながる助言をしたりする等、協働的な学習を通して、技能の向上を目指したい。また、バレーボールは自分のミスが失点に直結する種目なので、ボールに触りたがらない生徒も少なくない。そこで、バレーボールへの苦手意識を持つ生徒が積極的に練習やゲームに参加できるよう、ルールや用具を弾力的に変化させることで、ボールに触れやすくする状況をつくりながら、ボールに触れる回数を増やし、ゲームを楽しむことのできる態度を身に付けさせたい。</p>				



図1  
授業の流れを掲示  
するボード



図2  
タブレット端末で  
撮影した動画を見  
ながら、作戦会議  
をする様子



図3  
キャッチバレーボ  
ールにすることで、  
スパイクやブロッ  
クができるよう  
になった様子



図4  
タブレット端末で  
ゲームを撮影する  
様子

### ③本時の学習

(1) 目標 バレーボールコートで「拾って、つなげて、アタック！」を行うために必要なことを考える。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	指導上の注意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10分	<b>1 課題をつかむ</b> ①ランニング・体操・健康観察・チーム発表 ②今日の学習の流れを確認する。 ③スキルアップタイム ○キャッチバレーボールゲーム	○健康状態に十分注意する。 ○これまでの技能のポイントを振り返る。 ○みんなで声をかけ合いながら、ゲームができるように促す。
		<b>【めあて】バレーボールコートで「拾って、つなげて、アタック！」を行うために必要なことを考えよう。</b>	
展開	35分	<b>2 課題解決に向けて活動をする。</b> ① <u>これまでの学習を振り返る</u> これまでの個人・チームの動画記録を見ながら、技能のポイントを振り返る。 ②「 <u>単元のゴール姿</u> 」を再確認する バレー部が練習する動画を視聴し、「ゴールの姿」である「拾って、つないで、アタック！」がどのようなものかを確認する。  <b>【学習課題】空いた場所をめぐる攻防に必要な動きを考えよう</b>  ③ <u>ゲーム①</u> バレーボールコートとバドミントンコートで3分間×4セットのゲームを行う。ゲームを進めながら、学習課題の解決を図るための話し合いを行う。 ④ <u>チームで話し合い、全体での確認を行う。</u> 学習課題に対するチームの考えを整理し、全体意見を出し合う □空いた場所をねらうには・・・ □空いた場所をつくらないためには・・・ ⑤ <u>ゲーム②</u> 再度3分間のゲームを行う。ゲーム①と全体共有で学んだことを実践する時間とする。	○これまでの授業の中で撮影した個人やチームの技能の動画を見て、技能のポイントを確認させたり、上達を実感させたりする。 ○オンザボールの動きだけでなく、オフザボールの動きに注目させる。  ○見る人はゲームの観察や分析を行い、動画を適宜撮影する。 ○出された意見を認めながら、対話を重ねていくことで、学習課題に対する答えに気づかせる。 ○ゲーム②で学習課題を意識した動きができるように、「技能の基準」を示す。
		<b>【具体の評価基準】(思・判・表)</b>  自己や仲間の技術的な課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、  自己の考えを伝えている。	
終末	5分	<b>3 めあてに対する振り返りを行う</b> ①今日の学習のまとめ、発表をする。  <b>【まとめ】</b> ラリーの中で空いている場所をカバーする動きをするとよい。  ②学習の振り返り ③整理運動・片付け	○上手くいった時の場面を振り返りながら、新たな気づきがあれば発表させる。  ○教師がチームワークについての気づき、称賛、アドバイスをを行う。 ○生徒の体調を確認し、安全に留意させる。